



昭和53年4月22日第3種郵便物認可 日刊 (土・日・祝日休刊)

※無断転載、複写(コピー)、ネット媒体等への入力を禁じます。

令和2年5月29日金曜日 第10130号

目次

◎財務省、四月の輸入ナフサ価格、CIF 2万九千二百円……二
◎東レの三月期、中国経済の減速影響などで減収減益に……二
◎東レ、長期ビジョンと新中計を策定、持続的成長目指す……三
◎ランクセスの1-3月期、コロナウイルス危機下でも堅調……四
◎塩ビ樹脂、四月総出荷20%減、輸出大幅減コロナ要因か……四
◎VEC、2020年四月PVC/VCM需給実績(表)……五
◎NEDO、新型コロナウイルス感染症例情報の検索エンジンを公開……五
◎出光興産/組織改正(七月一日)……六
◎三菱ケミカル・役員人事(六月二十二日)……六
◎東ソー・人事②(六月二十五日)……六
◎財務省、2020年四月主要化学品輸出通関実績(表)……七
◎財務省、2020年四月主要化学品輸入通関実績(表)……八

☆宇部興産、CPL五月契約価格、前月比三十ドル高

中国で経済制限解除、稼働上昇で需給がタイトに

宇部興産は、ナイロン原料であるカプロラクタム(CPL)について、五月(上旬決め)の韓国・台湾大手向け契約価格を前月比三十ドル高のトン九百八十ドルで決着した。新型コロナウイルスの感染が拡大する前に決着した二月の価格以来、三カ月ぶりの上昇となっている。スプレッドも、原料ベンゼン価格が三百ドル台の低水準を継続したため前月比四十ドル拡大し六百五十五ドルに改善した。その背景として、中国ではいち早くロックダウン(都市封鎖)が解除され、経済活動が戻りつつあることが挙げられる。川下のナイロン需要は、食品包装向けは堅調に推移していたが、自動車向けが伸びてきたため、一気に引き合いが強まっている状況だ。一方、中国・SINOPECは、四月(下旬決め)の契約価格を前月比四十八ドル安(四百二十五人民元安)の一千五ドル(八千七百七十五人民元)で決着した。一見下がったように見えるが、三月価格の決定以降、四月第一週にはスポット価格で八百五十ドル程度にまで暴落しており、そこから百五十ドル以上戻したことになる。宇部興産も一千ドル以上の契約を目指していたが、中国では労働節休暇(五月一〜五日)を控えていたこともあり、早期の決着を優先させたようだ。さらに、SINOPECは五月十五日に仮価格を百四十ドル高の一千百四十五ドルで提示した。休暇明けからCPL需給にタイト感が出てきており、スポット価格が上昇していることを反映させた。ナイロンチェーンで見ても、稼働率は改善傾向にあ

脂事業は、中国経済の減速とコロナ禍による生産活動停滞の影響を主因に自動車・家電用途とも低調に推移。ケミカル事業は、基礎原料の市況下落の影響を受けた。フィルム事業は、LIB用セパレートフィルムが売上を拡大したが、ポリエステルフィルムでは光学用途や電子部品関連が在庫調整の影響を受けた。電子情報材料事業は、有機EL関連部材や回路材料が好調だった。炭素繊維複合材料事業は売上高一〇%増の二千三百六十九億円、営業利益八二%増の二百十億円。航空機向け需要や、環境・エネルギー関連向け一般産業用途が好調に推移したほか、スポーツ用途の需要が回復するなど、総じて堅調に推移した。環境・エンジニアリング事業は売上高二%減の二千五百二十三億円、営業利益八%減の百十二億円。水処理事業は、国内外で逆浸透膜などの需要がおおむね堅調に推移した。国内では、建設子会社が高収益案件の受注減少の影響を受けたほか、エンジニアリング子会社でエレクトロニクス関連装置の出荷が減少した。ライフサイエンス事業は売上高一%減の五百三十三億円、営業利益二五%増の十六億円。医薬事業は、経口そう痒症改善薬「レミッチ」が後発医薬品発売の影響を受けたが、市場全体の伸びもあり、堅調な出荷となった。なお今年度からIFRSに移行。通期業績予想は、新型コロナウイルスの感染拡大が第2四半期にピークアウトし、下期以降、国内外の経済は回復基調をたどることを前提に、売上収益八%減の一兆九千一百億円、事業利益四四%減の七百億円、親会社所有者帰属当期純利益五二%減の四百億円を見込む。

☆東レ、長期ビジョンと新中計を策定、持続的成長目指す
東レは、今後十年間程度の期間を見据え、長期経営ビジョン「ORAY VISION 2030」―持続的かつ健全な成長と社会的な価値の創造―(ビジョン 2030)を策定した。東レグループの強みである「研究・技術開発」「営業」「生産」が相互に連携し合いながら、素材を起点にサプライチェーンを構成する顧客や取引先などとの共創を通じて、社会に新しい価値を提供し、「サステナビリティ・ビジョン」に示す四つの世界像の実現を目指す。二〇三〇年度の数値目標として、二〇一三年度実績比でGR(グリーンイノベーション)売上高・売上収益四倍、LI(ライフイノベーション)売上高・売上収益六倍、CO2削減貢献量八倍などを設定した。一方、長期ビジョンを踏まえた新たな三年間(二〇二〇〜二二年度)の中期経営課題「プロジェクトAP・G 2022」―強靱化と攻めの経営――持続的な成長と新たな発展―(AP・G 2022)の取り組みを開始。新中計では、東レグループ全体で中期に創出する価値を最大化し、将来にわたって持続的な成長を可能にする強靱な事業基盤を構築して、ビジョン2030の実現に向けた一歩を踏み出す。具体的には「成長分野でのグローバルな拡大」「競争力強化」「経営基盤強化」を基本戦略に掲げ、全社横断プロジェクトとして「GR事業拡大プロジェクト」「LI事業拡大プロジェクト」「トータルコスト競争力強化(NTC)プロジェクト」を展開。中でもNTCプロジェクトでは、三年間累計で一千五百億円のコスト削減を目指す。同時に、重要課題として「循環型社会実

現に向けた取り組み「生産段階での排出削減の実現」「デジタル活用による経営の高度化」「人材確保・育成」を推進する。二〇二二年度に目指す数値目標は、IFRSベースで売上収益二兆六千億円、事業利益一千八百億円、事業利益率七%、ROA約七%、ROE約九%、フリー・キャッシュ・フロー一千二百億円以上(三年間累計)、D/Eレシオ〇・八程度、配当性向三〇%程度を掲げている。設備投資は三年間累計で五千億円とし、五〇%はGR事業やLI事業などの成長拡大に投資する。M&Aについては、設備投資とは別枠で戦略的に実施する。また、研究開発費は二千二百億円規模を設定し、将来の大型テーマや高収益テーマにリソースを配分していく方針だ。

☆ランクセスの一―三月期、コロナウイルス危機下でも堅調期(一―三月期)の連結売上高は、前年同期比で微減の十七億四千万ユーロ、特別項目を除いたEBITDAは同一〇%減の二億四千五百万ユーロ、特別項目を除いたEBITDAは同一%減の二億三千ポイント減の一四・四%、継続事業による純利益は同二八%減の六千三百万ユーロとなり、新型コロナウイルスのパンデミックによる経済の低迷にもかかわらず堅調な業績を維持した。特に、感染予防に有効な製品を扱う新設のコンシューマープロテクション部門とスペシャリティケアディバイス部門は好業績を達成した。なお、コンシューマープロテクション部門は、旧パフォーマンスケミカルズ部門に代わり、サルテイゴ、物質保護剤、液体高純化テクノロジーズのビジネスユニットで構成されている。一方、コロナ危機による自動車業界の低迷により、エンジン・アライング・マテリアルズ部門はマイナスで推移した。部門別の業績は、アドバンスト・マテリアルズ部門は、特にアジア地域のアドバンスト工業化学品がパンデミックによる需要低迷の影響を受け減収減益。スペシャリティケアディバイス部門は、臭素系製品と為替の好影響が自動車産業の需要低迷を相殺し増収増益。新設のコンシューマープロテクション部門も、特に物質保護剤ビジネスユニットの消毒剤の好調と為替の好影響、買収によるポートフォリオ強化が業績に寄与し増収増益。エンジン・アライング・マテリアルズ部門は、自動車産業の需要低迷により減収減益となった。同社は、第2および第3四半期はパンデミックによる影響が増大すると予測しており、第2四半期の特別項目を除いたEBITDAは二億二億五千万ユーロ、通期では八億九億ユーロを見込んでいる。こうした中、コロナ危機を乗り越えるために、自社株買い戻しプログラムの当面の延期、コスト統制、複数の投資プロジェクトの延期、合併会社カレント社の株式売却を行い、流動性資金を約三十億ユーロに増加させる。また、監査委員会、経営委員会、経営幹部の報酬減額を決定した。

☆塩ビ樹脂、四月総出荷二〇%減、輸出大幅減
 塩ビ工業・環境協会(PVC)がこのほど発表した需給実績によると、四月の塩ビ樹脂(PVC)の総出荷量は前年同月比二〇%減

で公開した。これによりCOVID-19症例の可視化・分析が可能となり、COVID-19に取り組む医療関係者の情報共有や診断・治療法の開発への貢献が期待される。NEDOは、業界横断型人工知能(AI)システムの開発と業界共用データ基盤の開発を通じて、幅広いデータ連携による価値創出の促進を目的に「Connexted Industries推進のための協領域データ共有・AIシステム開発促進事業」を推進している。今回、開発中のアルゴリズムを用いてCOVID-19症例の検索エンジンを開発した。COVID-19は人類がはじめて経験する疾患であり、多くの症例報告を収集し、わかりやすく整理した上で患者の傾向を分析することが急がれる。すでに日本感染症学会のウェブサイトの「COVID-19症例提示」で貴重な情報が提供されているが、その中で著者の許諾を得た約七十症例の報告を構造化しデジタルデータベース化した。それらCOVID-19の症例を、検索エンジンを用いて可視化、分析すること、個々の報告の文脈と臨床所見の関係性がわかりやすく表示され、非専門家でも活用しやすくなった。今後、医療の専門家と非専門家が協力して行う診断・治療法の開発の推進が期待される。

「出光興産／組織改正」(七月一日)▽渉外秘書室を廃止し、その機能を経営企画部に統合する。

「三菱ケミカル・役員人事」(六月二十二日)▽監査役小野貴弘▽同、三菱ケミカルホールディングス取締役地球快適化インステイティブユイト監査役小林茂▽退任(監査役)、顧問田中良治▽同(同)、三菱ケミカルホールディングス取締役浦田尚男。

「東ソー・人事②」(六月二十五日)▽退任(取締役常務執行役員クロル・アルカリセクター長兼購買・物流部長秘書室、監査室、大阪支店、名古屋支店、福岡支店、仙台支店、山口営業所担当中国総代表、人事部関与)堤晋吾▽東邦アセチレン社長池田悦哉▽退任(取締役(社外))小川賢治▽上席執行役員、ウレタン事業部長工藤雅之▽同役員中国総代表、経営管理室長米澤啓▽同役員、フアンクショナルポリマー研究所長土井亨▽同役員四日市事業所長吉水昭広▽法務・特許部長、執行役員吉村浩幸▽解兼中国総代表、同役員化学品事業部長大林秀行▽オレフィン事業部営業部長、同役員同事業部長堀内秀敏▽同役員、環境保安・品質保証部長竹田裕二▽同役員南陽事業所副事業所長、同事業所ウレタン第一製造部長児島康弘▽東ソー物流監査役(常勤)東ソー・エスジエム監査役小川展弘▽三和建設専務取締役原田寿興▽東ソー・ファイテム常務取締役江口久雄▽同社同村光三良▽東ソー総合サービス社長畑道規▽生産技術部長兼設備管理センター長松島聡介▽経営企画・連結経営部長井本英昭▽広報室長松岡克行▽ポリマー事業部企画管理室長河原一豊▽化学品事業部ソーダ営業部長小嶋新治▽ウレタン事業部長小田務。

財務省の2020年4月主要化学品輸出通関実績

(数量t、金額百万円、比率%)

品目	4月		累計数量	前年同期比	品目	4月		累計数量	前年同期比
	数量	金額				数量	金額		
エチレン	50,362	2,960	213,541	86.3%	テレフタル酸	3,384	149	8,009	146.9%
プロピレン	59,206	3,980	236,434	73.6%	テレフタル酸ジメチル	—	—	—	0.0%
ブタジエン・イソプレン	4,005	280	15,123	108.6%	A N	10,855	1,319	21,174	165.2%
シクロヘキサン	198	23	4,549	28.5%	カプロラクタム	9,372	936	34,376	95.3%
ベンゼン	38,679	2,330	159,825	74.1%	低密度PE	25,360	2,972	87,743	93.1%
トルエン	28,701	1,345	114,169	45.6%	高密度PE	13,633	1,844	46,662	88.1%
パラキシレン	181,335	11,379	843,695	79.4%	E V A	7,030	1,191	34,626	128.3%
S M	51,165	3,377	178,387	94.8%	P P	39,337	4,752	139,407	108.6%
V C M	64,084	4,148	294,655	97.0%	P S (F S)	1,339	105	5,348	88.5%
イソプロピル	5,726	654	25,735	80.6%	P S (G P ・ H I)	8,752	972	34,621	100.3%
ブタノール	4	2	431	3461.2%	A S	2,284	459	9,107	90.6%
オクタノール	508	47	10,909	58.1%	A B S	6,328	1,313	24,854	102.1%
E G	24,453	1,046	87,816	72.0%	P V C	32,689	2,837	215,420	90.6%
フェノール	2,994	279	20,517	85.0%	P O M	3,994	1,194	15,724	87.2%
アセトン	1,892	92	16,469	164.4%	ポリカーボネート	13,416	8,045	55,492	102.6%
M E K	8,348	902	50,939	91.5%	P E T	13,094	1,426	58,206	90.0%
酢酸	2,040	70	9,201	149.1%	ポリアミド(粉)	5,506	2,833	22,348	93.8%
酢酸エチル	5	1	22	67.9%	S B R (ソリッド)	8,745	2,082	54,576	75.8%
アクリル酸エステル	2,721	1,150	9,953	94.6%	B R	6,746	1,552	36,036	75.1%
M M A モノマー	11,661	2,532	46,431	95.6%	I I R	544	152	2,021	90.2%
無水マレイン酸	56	13	246	23.7%	C R (ソリッド)	5,972	2,775	26,008	82.6%
D O P	443	60	1,524	102.3%	N B R (ソリッド)	4,314	1,313	18,478	114.7%
無水フタル酸	3,761	267	16,485	111.0%	カセイソーダ(液)	157,232	2,065	696,997	125.3%

※「—」は当月・累計、または前年実績なし

※低密度PEには、L-Lおよびエチレン-アルファ-オレフィン共重合体を含む

財務省の2020年4月主要化学品輸入通関実績

(数量t、金額百万円、比率%)

品目	4月		累計数量	前年同期比	品目	4月		累計数量	前年同期比
	数量	金額				数量	金額		
ナフサ(千kl)	1,801	52,560	8,256	99.5%	A N	1,546	215	7,957	237.2%
エチレン	9,791	498	42,915	110.2%	低密度PE	26,860	3,581	116,834	98.7%
プロピレン	3,243	282	24,480	108.8%	高密度PE	15,051	1,673	63,170	92.8%
ブタジエン	1,002	90	3,427	28.1%	EVA	289	97	852	104.4%
シクロヘキサン	—	—	1,988	66.6%	P P	28,070	3,913	128,548	101.0%
ベンゼン	2,871	93	26,478	58.5%	PS(FS)	893	132	3,220	95.7%
トルエン	971	35	3,946	65.6%	PS(GP・HI)	397	56	2,378	126.3%
パラキシレン	5,192	259	20,369	203.7%	AS	380	71	1,618	63.5%
SM	—	—	2,866	—	ABS	4,315	750	15,086	101.4%
EDC	6,042	212	49,298	62.1%	PVC	411	76	1,826	91.8%
VC	—	—	—	0.0%	POM	2,928	620	12,806	99.0%
メタノール	131,091	3,389	582,306	101.1%	ポリカーボネート	6,656	1,704	27,455	103.2%
EG	108	16	294	110.8%	PET	91,737	9,426	318,129	86.0%
フェノール	10,998	877	44,614	148.1%	ポリアミド(粉)	10,781	3,476	45,725	82.4%
ビスフェノールA	2,426	302	11,734	113.7%	SBR(ソリッド)	4,337	902	20,889	82.4%
アセトン	268	20	2,698	205.4%	BR	1,928	346	7,321	142.0%
MEK	—	—	1	—	IIR	269	84	803	85.6%
酢酸	2,597	112	27,950	68.4%	CR(ソリッド)	42	22	148	45.2%
アクリル酸エステル	4,564	827	14,882	90.1%	NBR(ソリッド)	483	143	1,826	82.6%
MMAM	932	323	3,654	105.1%	アンモニア	—	—	0	15.3%
DOP	616	68	3,718	122.6%	カセイソーダ(液)	23	13	71	113.5%
無水フタル酸	—	—	—	0.0%	ソーダ灰	7,159	208	17,688	60.9%
テレフタル酸ジメチル	2,458	240	6,856	107.8%					

※「—」は当月・累計、または前年実績なし

※低密度PEには、L-Lおよびエチレン-アルファ-オレフィン共重合体を含む